

3. 2019年度 第2回教職課程探究シンポジウムの開催と報告

文責 佐藤洋一（教職課程研究会代表）

- 1 開催日時 2020年（令和2）1月22日（水）14:30～17:00
会場 本学ヒューマンケア学部C棟2階206教室
主催 名古屋学芸大学教職課程研究会
- 2 テーマ 新学習指導要領で育てる資質・能力とは何か？
－教科・横断的な学習、幼保小中の連携、高大接続で問われる力－
※シンポジウムの構成と登壇者等の詳細は別紙参照（資料6-3-2）
- 3 参加者 本学教職員及び高校教員（指定討論者関係）50名
内訳…学内教員35（学長、副学長、学部長等）、学外（2名、高校長、高校進路指導主事）、職員13名（事務局部長、総務課長、教務課長、入試課長等）
- 4 第1回、第2回教職課程探究シンポジウム（教職FD）の重点（下線部）
 - (1) 第1回シンポジウムは、本学で初めての「教職FD」として実施した。
 - 1) 教職課程の「質保証」につながる教職課程教員の「実践報告」を軸としたシンポジウム。
 - 2) 学長の出席と御講評、副学長、事務局、事務職員の参加による全学的・組織的な開催。
 - (2) 第2回は、第1回をやや拡大し教員養成を主とするヒューマンケア学部の先生方の登壇と提言による「教職FD」として開催。こういう形式は学部では初めての試みであった。
 - 1) コンセプトは保幼小・小中・高大接続と資質・能力の教育・実践課題の提示（解明）等。
 - 2) 高大接続の観点から現職の高校長・進路指導主事に指定討論者として登壇依頼。
 - 3) 第1回同様、全学的・組織的な教職FDとして開催（公表義務等への実績づくり他）。
- 5 第2回教職課程探究シンポジウム（教職FD）を振り返って
 - (1) 保育・幼稚園、小中・高校、大学の現場経験のある教員が提言しての、『社会に開かれた教育課程』の実現（資質・能力と教育課程研究・評価方法）の議論が、初めてできたこと。
 - (2) 新学習指導要領の現代的な意義と実践課題・問題点の論点が提示されたこと（問題提起）。
 - (3) 保幼小・高大接続の新たな必要性（資質・能力と教育課程の面から）、汎用的な学びや「学びに向かう力」等の評価開発の課題、大学で求められる学生像等が論じられたこと。
 - (4) 高校現場の御二人の提言は特に説得力があり、シンポジウムが構造化する契機となったこと。
 - (5) 日本のカリキュラム研究や教育方法学・各教科教育学でも解明されていないテーマ、かつ教育現場で2020年4月以降、実践課題となるテーマを設定したこと。
 - (6) 論点が多様で広がりがあったため、絞った形で深めることが十分でなかったこと。
- 6 今後、実施する場合の検討課題—第1回、第2回を実施して—
 - (1) コンセプト、テーマ、解明すべき論点、日程や規模等を絞った「教職FD」とする。
 - (2) はじめの企画段階の会議から、(1)について副学長（教学）、ヒューマンケア学部長、FD推進委員会委員長、事務局長等に入っていただき、計画的に検討する。
 - (3) ヒューマンケア学部・児童発達教育コースの改組（2021年4月）と教職課程の充実の方向性、中教審「教員養成部会」「教学マネジメント部会」等の動向と取りまとめ等を見つ、「教職FD」の必要性と在り方、テーマ・日程や規模、公開・非公開等を改めて検討する。
例、2021年度以降、小学校教員・特別支援教員養成に関わる「教職FD」の開催。文科省視学官等による基調講演と協議等、午後開催、公開（高校関係者、保護者）。
 - (4) 教職課程教員による教育方法・授業改善研究会（小規模「教職FD」2018年～）は継続して行う（10～12月、名古屋学芸大学教職課程研究会主催）。なお、2021年度以降は、児童発達教育コース教員、ヒューマンケア学部教員等への報告依頼も検討する。
 - (5) 教職に関わる「教員の業績作成支援」の一環として、また「教職FD」の実績づくりの一つとして『資質・能力を育てる教職カリキュラム研究 教育実践記録集』の刊行を行う。第2集は2020年2月刊、ここに第1回シンポジウムの記録を掲載している。 以上

I テーマ

新学習指導要領で育てる
資質・能力とは何か？

—教科・横断的な学習、幼保小中の連携、高大接続改革で問われる力—

日時 - 2020(令和2)年 1月22日 (水) 14:30 ~ 17:00

会場 - 本学ヒューマンケア学部C棟2階206教室

対象 - 本学教職員及び高校教員 (指定討論者関係)

II 主催と趣旨

主催 - 名古屋学芸大学教職課程研究会

趣旨 -

2020年4月から新学習指導要領による小学校教育が始まることを受け、『「社会に開かれた教育課程」の実現』の観点から、新学習指導要領で育てる資質・能力とは何かを検討する企画である。問題提起の後、4名のシンポジストから各教科で重視される「見方・考え方」、教科等横断的な学習や評価の在り方、「幼小接続」等について話題提供していただく。6名の指定討論者には、御専門や御立場から感想や提言、批評等を率直に言っていただく。

特に、今回は高校の教育現場から「高大接続改革」に関わる現状や大学教育への御期待等を語っていただき、大学の教員養成の視点から(教学マネジメント等)高大接続段階で問われる能力と課題、社会が大学に求める教育の在り方についても考察を深めたいと考えている。

III シンポジウム日程 全体司会 松崎利美・浅田謙司(教職課程)

14:00 ~ 受付開始 諸連絡

14:30 ~ 開会の挨拶 釜賀雅史(ヒューマンケア学部学部長)

14:35 ~ コーディネーター挨拶 石井鈴一・細溝典彦

14:40 ~ 問題提起 佐藤洋一(名古屋学芸大学教職課程研究会代表)

なぜ、何のための資質・能力型教育なのか?—well-being と真正な深い学び

14:50 ~ シンポジウム 話題提供・提案各7分

石井鈴一(教職課程) 理科教育を通して育成すべき資質・能力とは

栗田千恵子(教職課程) 特別の教科「道徳」がめざす授業に向けて

細溝典彦(教職課程) 高校と大学における自分の授業実践を今、振り返る

津金美智子(幼児保育専攻主任) 学校教育で育みたい資質・能力と「幼小接続」

指定討論者コメント 各6分

遠山久美子(子どもケア専攻 専攻主任)

大原榮子(同 養護教諭コース主任)

黒田美保(同 児童発達教育コース主任)

黒宮達夫(名古屋市立名東高校 進路指導主事)

岩間 博(愛知工業大学名電高校校長 元・岡崎高校校長)

堀尾正典(名古屋学芸大学 FD 推進委員会委員長)

討議 約40分…登壇者及びフロアーの参加者

16:40 ~ 講評及び閉会の挨拶 杉浦康夫(名古屋学芸大学学長)

16:50 ~ 諸連絡 アンケート記入提出他 16:55 終了

2019年度・教職FDの全学的研修の
一環として記録『資質・能力を育てる教職カリキュラム研究第3集
(教育実践記録集)』(2021年2月刊行)に掲載。

問い合わせ先: 佐藤洋一 y-sato@nuas.ac.jp